

わーく&らifu

令和3年度 第5号 12月23日 発行

■CONTENTS■

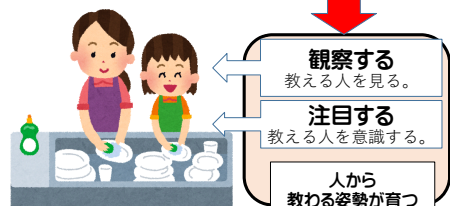
★年末年始特集 ～家族と一緒に活動で「教わる」力をアップ！～

もうすぐ冬休み、そして年末年始のこの時期、進路便りでは、毎年恒例の年末年始特集をお届けします。

冬休みには暮れの「大掃除」や「片付け」、年が明ければ年始・親戚の集まりなど、この時期ならではの年中行事があります。また、ご家族の皆様も年末年始休暇で、いつもより少しだけ余裕をもってお子様と向き合い、活動できる時期ではないでしょうか。今回の「わーく&らifu」では、家族と一緒に取り組む活動の意義と、年末年始の過ごし方のポイントについてご提案します。

■人と「一緒にする」が育む重要な力

人のそばでお手伝いを 繰り返すことで、



「教わる」ことができる力が育ちます。

左図をご覧ください。人と「一緒にする」ことが、学びの力（「教わる」ことのできる力）につながることを表しています。

「教わる」ということは、手本を見て（注目）真似をしながら行動し（模倣）、その時間を相手に合わせる（協調）ということで、いろいろな事の習得につながる基本行動です。教わる相手が、お母さんだったり、お父さんだったり、きょうだいだったり、「相手が変わる」こと

も、変化を受け入れるための大切な学びとなります。

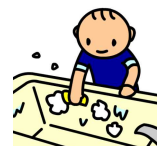
また、「一緒にする」行動は他にもいろいろあります。特に「楽しむ」活動、たとえば、絵本の読み聞かせ、手遊び、運動、ものづくりなどにも、「注目する」「模倣する」場面が必ずあり、同様の効果があると考えられます。

長期休業中、ゲームやスマホで自由に過ごしてしまう子どもが増えています。ご家族にも余裕のあるこの時期に、親子で一緒にできるいろいろな活動にチャレンジしてみてください。

次に年末年始の過ごし方のポイントをご提案します。

◆ポイント1 「冬休みのスケジュール・目標づくりからスタート」

冬休み初日には「スケジュールと目標づくり」をやりましょう。できればお子様も交えた話し合いで目標と日課が決まれば最高です。これは本校が大切にしている「決める力」を育むためのポイントでもあります。起床時間や活動の順序など1日のスケジュールを具体的に決めておきましょう。



◆ポイント2 「いつも通りに」

特別なことに取り組む必要はありません。いつもどおりの一連の家事（ゴミ出し、新聞を取る、朝ご飯の支度、片付け、洗い物、掃除・洗濯等々）を、お子様と一緒にやってみましょう。



年末恒例の「大掃除」は日本人としての文化を教える機会でもあります。お子様の部屋や物の片付け・整理あるいは断捨離を通して、身の回りの4S（「整理」「整頓」「清掃」「清潔」）を体感させましょう。

◆ポイント3 「あいさつも重点的に」

年末年始は親類など集まる機会が多く、あいさつの機会がたくさんある時期です。大人が率先してよいお手本を見せましょう。マスク着用など、感染予防も引き続きお願いします。



◆ポイント4 「ほめ言葉のシャワーを」

人が成長するためには、周囲からほめられる（認められる）ことが欠かせません。認められることで、自分自身を肯定的に見ることができるようになります。親子で取り組む中で、できたことを、できたぶん（大げさでもいいから）しっかり認め、ほめてあげましょう。「ありがとう！たすかったよ。」「きれいになって嬉しい。」など、家族の一員としての自分を意識できるように、お子様にわかる伝え方で感謝の気持ちを伝えましょう！



◆ポイント5 がんばった分と評価（報酬）の結びつけ

お年玉の時期、お手伝いと対価の結びつけもしやすい時期です。「これをがんばったから、お年玉」「冬休みに毎日〇〇できたら〇〇」という具合です。

ごほうびのあげ方も、お子様によっては毎回あげる、シール（トークンシステム）をためる、お小遣い日（給料日）を決めて社会生活に近づけるなどの工夫ができます。どうぞお子様にあったやり方で取り組んでください。



編集後記

人と一緒にするお手伝いは、様々な「見えない力」を育むとされています。例えば「単調なことでも続けること（我慢強さ）」「相手のペースに合わせること」「ルールや手順に従うこと」「必ず終わりまでやること」「時間になったら終わること」などで、これらすべてが、将来「はたらく」ための基礎となっていくのです。

（高等部 谷口）